



## 臨床研修医より ～開院後8ヶ月を振り返って～

研修医 新藤 守孝

公立西知多総合病院が診療を開始してから8ヶ月が経過します。当院で勤務する以前は、合併前の知多市民病院に勤務していました。

知多市民病院と比較すると、病院の規模はかなり大きくなり、設備は充実し、職員数も増え、患者さんにとってよりよい医療が提供できるようになったのではないかと思います。

研修医の自分にとって、一番大きく変わったのは救急分野です。現在日中は救急科の医師が2名常駐し、夜間は内科、外科の2名が診療を行っています。またICUも新設され、より重症の患者さんも受け入れられるようになりました。診療体制は以前より充実し、より多くの救急車を受け入れるようになりました。そういう状況の中、自分も少しでも貢献できるように今後も頑張っていきたいと思います。

**2年間たくさんのこと学ばせていただきました。ありがとうございました。**

### お知らせコーナー

#### 土日、祝日の病院出入口のご案内

土日、祝日は正面玄関からの出入りは終日できません。  
北出入口もしくは時間外出入口をご利用ください。

北出入口（通用時間）

午前9時～午後8時30分

救急受診は、時間外出入口をご利用ください。



#### 今後の糖尿病教室のご案内

場所：公立西知多総合病院 2階講堂  
ご自由にご参加ください！！（予約は不要、参加費は無料です。）

開催日時	内 容	今月の運動	実践体験	今月のレシピ
2月2日（火） 14時～15時30分	糖尿病と病気の日 ～体調不良を上手に乗り切る方法～	足の運動	体験！ 血糖値を測ろう！	サラダ
3月1日（火） 14時～15時30分	糖尿病と歯周病 ～健口な人生を送るコツ～	腰の運動	体験！ 正しい歯磨き	デザート



公立西知多総合病院だより 第2号

2016年1月発行 編集:広報図書委員会 発行:公立西知多総合病院



# 公立 西知多総合病院だより

vol. 2  
2016年  
1月号

## 新病院の新年を迎えて

副院長(兼)看護局長 植村 真美

## 乳がん～早期発見が決め手です！！～

健診科 田中 幸恵

## 今年も花粉の時期が近づいています

耳鼻いんこう科 片岡 麻衣子

## 女流棋士の講演とリラックスヨガ体験（糖尿病市民公開講座）

## 老化防止の遺伝子は腎臓にあった！（市民公開講座）

## 臨床研修医より・お知らせコーナー

# ICU～地域の最後の砦となるために～

麻酔科・集中治療部 新美 太祐



# 新病院の新年を迎えて

副院長 兼 看護局長 植村 真美

新年明けまして  
おめでとうございます。

昨年5月に公立西知多総合病院が誕生し、最初の新年を迎えることができました。地域住民の皆さん、医師会、その他多くの関係者の皆さんに支えていただいたおかげと感謝しております。

当院は、地域住民の皆さまの健康と生命を護ることを使命とし、開院以来、地域医療連携の強化や「断らない救急」を実践して参りました。

地域医療連携の強化は、患者サポートセンターが軸となり、かかりつけ医や他の医療機関との連絡会議や調整、訪問看護ステーションとの看護連携などを積極的に行うとともに、Webを活用した診療・検査予約等が行える「さくらねっと」の普及にも努めました。その結果、オンライン予約件数は開院時の4倍以上となりました。



## 部署紹介

### ICU

～地域の最後の砦となるために～



麻酔科・集中治療部 医長

新美 太祐



#### はじめに

地域完結型の医療を目指す中で、急性期医療の中核を担う当院においてその中心的役目を果たすべく、新たに8床を有する集中治療室（Intensive Care Unit: ICU）がオープンしました。

内科系・外科系を問わず様々な重症病態に対応できるよう、ICU専従医2名と看護師25名が24時間体制で診療を行っています。

#### 集中治療とは

ICUには「大手術術後で継続した全身管理が必要」、「救急患者の中で高度な全身管理を必要とする」、「病棟入院中に状態が悪化した」など、内科系・外科系を問わず重症患者さんが入室されます。そのような重症病態においては、単一臓器の疾患にとどまらず、複数の臓器が障害され（多臓器不全）、複雑な病態を呈しています。このような患者さんに対して、臓器や疾患に偏ることなく、強力かつ集中的な治療とケアを行うことで臓器機能を回復させ、救命することが集中治療の目的です。

#### Open ICUとClosed ICU

ICUは運営形態からOpen ICUとClosed ICUに分けられます。Open ICUとは各科管理のICUであり、主治医／主科がICUに入室させ、そのまま治療を継続する形態です。これは運営自体簡単にできますが、主治医は外来・検査・手術など他業務もあるため、きめ細かい管理は困難になります。

一方、当ICUが導入しているClosed ICUではICU専従医が中心となって診療にあたります。先に述べたように、ICUは重症患者さんが対象であり、その状態は一刻と変化します。その変化に迅速かつ細やかに対応すること（滴定治療）が求められますが、専従医が対応することで可能となります。また、指示系統を一本化することで治療方針や指示の出し方に混乱が生じにくいという利点もあります。その他、Open ICUと比べて人工呼吸期間やICU在室日数が短くなり、死亡率を下げるという効果も報告されています。そのためClosed ICUを導入していますが、ICU専従医と主治医との連携をしっかりと取るために毎日他職種を交えたカンファレンスを行っています。

#### 治療の3本柱

当ICUでは、急性血液浄化療法、早期経腸栄養、急性期呼吸リハビリテーション、を治療の3本柱としています。

臨床工学技士の協力のもと、重症敗血症や急性腎不全、急性肝不全など様々な重症病態に合わせた血液浄化を24時間体制で施行できる体制をとっています。また、できる限り早期に経空腸栄養を開始できるように栄養チューブの留置を行い、積極的な栄養管理を行っています。そして、理学療法士や看護師の協力のもと、24時間体制で体交や腹臥位療法など呼吸リハビリテーションを施行し、少しでも早く人工呼吸器から離脱できるように治療しています。

#### RRT

10月からはICUが中心となり、院内急変対応システム（Rapid Response Team: RRT）を開始しました。

急変の多くは、その6~8時間前に何らかの徵候が見られる、と言われています。そのような変化を早期に発見し、できる限り早く治療を開始することで入院患者さんの急変を減らし、安全な入院生活を送ることができます。RRT導入の目的です。また、そのような状況を発見した医師や看護師だけでなく、多くのコメディカルの相談窓口として、病院の質をさらに向上させていきます。



#### 終わりに

以上のように病院内外を問わず、疾患を問わず、重症患者さんの治療をスタッフ一丸となって24時間体制で行っています。学会活動や院外研修なども積極的に行い、この地域の最後の砦となるよう日々努力していきますので、今後も西知多ICUにご期待下さい。

# 乳がん

～早期発見が決め手です！！～

## ご存じですか？

日本では、一生のうちにおよそ12人にひとりが乳がんと診断されています。

## 乳がんとは？

乳がんは、乳房の中にある乳腺（乳管、小葉）に発生します。乳房には、母乳を作る乳腺が乳頭を中心にして放射状に並んでおり、それぞれの乳腺は小葉に分かれ、小葉は乳管という管（くだ）でつながっています。乳がんの90%は乳管から発生しますが、小葉から発生するがんもあります。

乳がんは早期に発見し、早期に治療すれば治癒率がとても高い「治るがん」です。そのまま放置すると乳房の外にまでがん細胞が増え、全身に広がり命を脅かすこともあります。

## 乳がん検診はどんな事をするの？

- 間診
- 視触診

医師が手で触れてしこりがないか、リンパ節が腫れていないか、乳頭から分泌物がないなどを診察します。

### ● マンモグラフィ検査

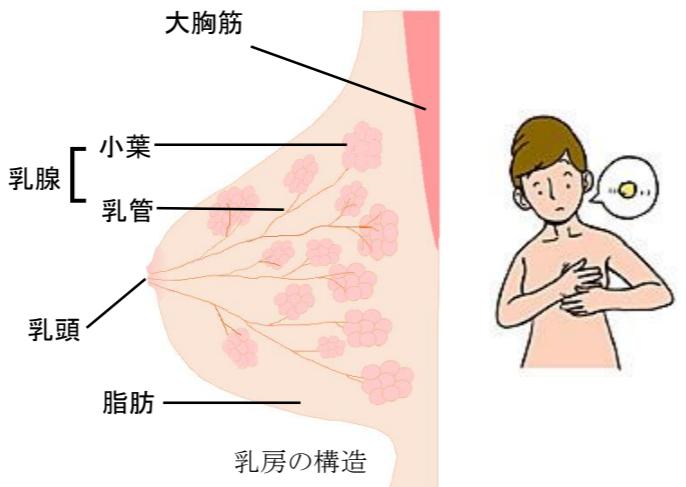
乳房専用のX線検査です。乳房を2枚の板で挟み、乳房全体を撮影します。病変が見つかりやすい画像にするために、乳房を出来るだけ平たくします。個人差はありますが、乳房を平たく伸ばすため若干の痛みを伴います。

### ● 超音波検査

妊娠の可能性のある方やマンモグラフィ検査ではわかりにくい乳腺の多い若い方に適しています。マンモグラフィ検査との併用も行われます。

※これらの検診に加え、月1回の自己触診を併用されることをおすすめします。

健診センター  
健診科 部長 田中 幸恵



## 精密検査が必要といわれたら？

乳腺外来でマンモグラフィの追加撮影や超音波検査、必要に応じてMRIや針を刺して細胞を調べる検査などを行います。当院の外来で受診も可能です。



マンモグラフィ（乳房撮影装置）

## 当健診センターの特徴

健診センターでの検査は、女性専用エリアで区切られ、女性技師がマンモグラフィ検査や超音波検査を行いますので安心です。

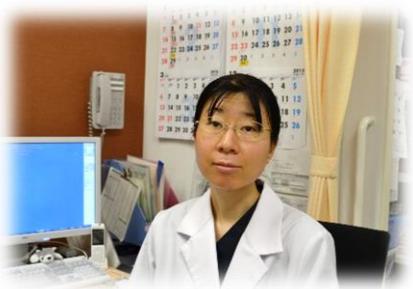
マンモグラフィ、超音波検査ともに前回検査と比較し複数の医師が読影診断を行います。



女性専用待合

# 花粉症について

耳鼻いんこう科 部長 片岡 麻衣子



今年も花粉の時期が到来します！



スギ花粉飛散の様子

## 花粉症とは？

私たちの体が、ある物質に対して過剰な反応を示すことをアレルギーと呼びます。鼻の粘膜にアレルギーが生じると、鼻づまりや水のような鼻汁、くしゃみなどが出現します。この状態はアレルギー性鼻炎と呼ばれ、原因にはハウスダスト、ダニ、花粉などが挙げられます。

スギやヒノキといった花粉が原因で起きるアレルギー性鼻炎が花粉症です。どんな植物の花粉が原因なのかを採血検査で調べることができます。花粉症でお困りの際は、当科までご相談ください。

## 花粉症対策

### ～日常～

原因である花粉を回避することが症状の緩和につながりますので、花粉の飛散時期には花粉情報に気をつけて、飛散の多い日は外出を控えることや、窓や戸を閉めておく、外出時は眼鏡やマスクをする、帰宅後は衣服をよくはらうといったことをおすすめします。

### ～お薬～

お薬の治療としては点鼻薬や内服薬があります。花粉症は鼻の症状だけでなく眼の症状もありますので、その場合は点眼薬も併せて使用します。花粉症のお薬も、特に鼻づまりに効きがよいもの、鼻水に効果的なもの、副作用である眠気が少ないものなど様々です。点鼻薬の中には、使いすぎると鼻づまりをひどくするものもありますので注意が必要です。

また、当院ではまだ行っていませんが、現在注目を集め今後普及していくと思われる治療法に、舌下免疫療法があります。これは、スギ花粉を原料とした薬液を少量から内服することによって体を慣れらし、スギ花粉によるアレルギー症状を和らげるというものです。

一日一回、少量から内服を始めて二週間かけて徐々に增量し、その後は決まった量を数年間継続して内服します。お困りの時は当科にご相談ください。

### ～手術～

お薬の治療で効果が乏しい場合は、鼻の粘膜の焼灼や切除という外科的な方法もあります。

鼻の粘膜は再生しますので永続的な効果というわけではありませんが、粘膜を切除することは、アレルギー反応の起きる場所を減らすことになり、また切除した分だけ鼻の中が広くなるので、鼻水や鼻づまりなどの軽減が期待できます。



a:正常鼻内所見



鼻粘膜が腫れて鼻の中が狭くなっています。

b:花粉症急性期の鼻内所見

# 女流棋士の講演とリラックスヨガ体験 ～糖尿病市民公開講座開催～

最近の糖尿病治療



糖尿病は世界的脅威でありながらもその治療は常に進歩しており、患者さんに負担の少ない薬の開発や臍島移植・今後の再生医療などについての話を参加者の皆さんに真剣に聞いていました。

(講師：竹内医師（内分泌・代謝内科医長）)

食事療法の基本



足を守るフットケア

リラックスヨガを体験

適正なエネルギー量の摂取や乳製品、肉・魚類、野菜をバランスよく3食規則正しく食べ、これらを長く続けることが大事です。

(講師：吉川管理栄養士)

フットケアのポイントは、【か】：観察は毎日、【き】：きれいに保つ、【く】：靴選びは慎重に、【け】：ケガをしない、【こ】：こまめに爪切り】です。

(講師：加賀江看護師)



この他にも杉江理学療法士による「みんなで体操」や、フードモデル展示コーナーもあり参加者の皆さんに公開講座を楽しんでいました。

目標があるから頑張れる

また、特別講演「私と囲碁とインスリン」と題して女流プロ棋士の木部夏生さんによるお話をありました。木部さんは小学校4年の時に1型糖尿病を発症され、それ以来インスリンを毎日打ち続ける生活を送って来られました。



その生活の中で囲碁に出会い、16歳で囲碁のプロ試験に合格されました。

現在は、女流のトップ棋士になり世界で戦える実力をつけることを目標に努力されており、その真摯な姿に大きな拍手が送られました。



午後には「リラックスヨガを体験してみよう」ということで、ヨガ講師としてご活躍のYUKAKOさんによる体験教室でした。YUKAKOさんの見事な模範演技に感心する間もなく、すぐに手取り足取りの熱心な指導が始まりました。

ヨガマットの上で体を曲げたり様々なポーズをとったりと、参加者の皆さんに気持ちよくヨガを体験されていました。

次回糖尿病教室ご案内

第8回 糖尿病教室のご案内

- 日 時：平成28年2月2日(火) 14時～  
内 容：  
1. 糖尿病と病気の日  
～体調不良を上手に乗り切る方法～  
2. 足の運動  
3. 体験！血糖値を測ろう！  
4. 今月のレシピ(サラダ)  
☆みなさまのご参加をお待ちしております☆



# 老化防止の遺伝子は腎臓にあった！

公開講座に市民410人

医療現場からの生情報に高い関心

昨年10月18日(日)医師会主催の市民公開講座「すばらしい腎生をあなたに」が知多市勤労文化会館で開催され、当院職員も講演しました。

医療現場からの生の情報に市民の皆さんのがん心も高く、講演が終わった後も内容について互いに話し合う様子が見られました。

休憩時間にはフラダンス教室の皆さんによるフラダンスショーが開催され、かわいい子供さんからベテランダンサーまでそろった演技に大きな拍手が送られました。

## 気づかぬまま、あなたも腎臓病(CKD)

会は湯澤由起夫教授(藤田保健衛生大学)による問題提起「CKDってなあに？」で始まりました。



湯澤教授

モツアルトや明治天皇が亡くなった病気として知られる腎不全は年々増加し、血液透析を必要とする患者さんは2013年には400人に一人となっています。

実はそうなる前に治療すべき時期があり、慢性腎臓病(CKD)と言います。しかし、ほとんどの患者さんが自分がCKDだとは知らないそうで国民の8人に一人、合計1,330万人が該当すると推計されています。

## ドカベン香川が急死した原因

CKDが怖いのは腎不全だけでなく心筋梗塞や脳卒中などの危険が高まることです。ドカベンの愛称で知られたプロ野球選手の香川伸行さんも腎不全治療を受けていたが心筋梗塞のため昨年52歳の若さで急死したことが知られています。



フラダンスショー

## 蛋白尿で発見

腎不全(尿毒症)となるとだるい、むくむ、吐き気、食欲不振、貧血などの症状が出ますがこの段階で気づくのでは遅すぎで、CKDのレベルで早期発見してもらう必要があります。

CKD発見のきっかけは尿にタンパクが出ることで、蛋白尿と中等度腎機能低下が3ヶ月続くとCKDと診断されます。

## 腎臓を守ることは老化防止

日本人が発見した遺伝子クロトー(Klotho)は老化防止の遺伝子として知られ、欠損したマウスは老化に似た症状を発症して早死にしてしまいます。

このクロトーが腎臓にあることから「腎臓を守ることは老化防止」と言われています。

この公開講座での当院職員による講演内容を次号以降ご紹介します。

日常に潜む腎臓病 ～おしつこい異常をみのがすな～	腎臓内科 久志本浩子
塩分控えめ、美味しい食事	臨床栄養科 小島多恵子
睡眠時無呼吸症候群と腎臓	耳鼻いんこう科 大嶋久和
お薬との上手な付き合い方	薬剤科 田中麻衣子